

☆放課後子ども教室☆

初雪の便りも届き、今年も冬の入り口に立ちました。長い冬が始まると思うと、少しばかり気持ちが重たくなりますが、それでも雪の降り初めは子どものころと変わらずワクワクしてしまうのです。今年子どもたちと雪遊びがたくさんできるといいな、と思っています。

11月に入っても、活動の中盤になると半そで姿になっている子どもたち。寒くはないのか、風邪をひかないかとやきもきする大人の心配をよそに、「暑いから大丈夫!」と返事が返ってくるばかりです。春から夏にかけて少しずつできてきた子どもたち同士の関係性。お互いの性格や興味関心の向き方などが見えてきた最近では、次のステップとしてチームで何かをするというプログラムを増やしています。チーム対抗のスポーツはもちろん、レクリエーションゲームでも仲間と協力するという場面をつくっています。ときにはケンカをすることもありますが、それぞれの得意・不得意を考慮しながら役割分担をする姿も見られました。

中央小学校の活動日に防災に関するプログラムを行いました（上厚真小は12月のプログラムで実施する予定です）。役場総務課との共同プログラムで、厚真町の防災アドバイザーである定池祐季先生の参加もいただきました。自然災害にあったとき、避難所で生活をしなければならなくなったとき、それら“もしもの時”を想定しておくことの大切さを学び、災害時に役立つ新聞紙スリッパの作り方を教わりました。テープやのりがなくても簡単に作ることができ、裸足でいるよりも足が保温されます。他分野の人たちと協力し合えば、こうした新しいプログラムを子どもたちに届けることができるんだということを実感した一日でした。



平日の活動のほか、特別教室も開催しました。10月にはあつま新鮮組が主催する『あつま特産市』にて、子どもたちが特産品の販売をお手伝いし、町のPR活動を一緒に行いました。最初は小さかった声も、次第に自信のある大きな声に変わって、お客さんを呼び込む立派な戦力となっていたと思います。11月には食育プログラムとして、厚真産の素材を使ったピザづくり体験を、町の環境保全林で実施しました。とまこまい広域農協青年部の部員さんにご協力をいただき、ご自宅で備蓄してあった野菜をわけてもらい、ピザづくりに挑戦。その日は積もるぐらいの雪が降った日で、子どもたちはピザづくりと雪遊びの両方を楽しめる一日となりました。たくさん遊んで、地元食材を使ったおやつをみんなで食べる。決して派手なイベントでもなく素朴な活動ですが、子どもたちにとってはとても大切な体験だと思います。こうした温かな時間をこれからも子どもたちと過ごしていきたいです。

